

県内4人目の中小企業応援士

三重化学工業社長に委嘱状 松阪

松阪市大口町の保冷剤や医療用冷却剤メーカー「三重化学工業」の山川大輔社長(四四)が中小企業基盤整備機構から「中小企業応援士」を委嘱された。委嘱は県内で四人目。十五日、同社で委嘱状の授与式があった。中小企業応援士は、二年の任期で、同機構の支援制



茂木本部長(左)から委嘱状を受け取る山川社長＝松阪市の三重化学工業で

度を紹介するなどして中小企業の経営を後押しする。二〇一九年度に始まった制度で、地域の企業支援などで実績がある経営者らに委嘱する。

同社は、研究開発室や会議室を備えた「ミエラボ」で、他の企業や団体を交えた商品開発や、学生を招い

た会社見学を行っていることなどが評価された。

授与式では、同機構中部本部の茂木文雄本部長(六〇)が山川社長に委嘱状を手渡した。

茂木本部長は「機構だけでは全ての中小企業に支援が届かない。支援事業の紹介や企業同士の連携のきっかけを担ってもらえれば力強い」と期待を込め、山川社長は「単独で経営に悩む企業が多い中、松阪のいろいろな企業と連携しながら共に発展していきたい」と意気込んだ。(奥村友基)

松阪市と南勢資材 災害時の協定締結

避難所の物資供給
松阪市は十五日、農業用ビニールハウスなどの設計や施工を行う「南勢資材」(上蛸路町)と災害時の物

協定書に署名する村木代表取締役＝松阪市役所で



資供給に関する協定を締結した。災害発生時や発生のおそれがある場合、同社はパイプやフィルムなど自社の資材を提供し、避難所で使うパーティションや、仮設の雨よけスペースの設置を担う。

同社で扱うフィルムは不透明のものもあり、避難所内でのプライバシーを確保するためのパーティションなどを作ることができるという。

締結式で同社の村木厚之代表取締役は「小さな提案